

タブレット機器導入による効果と負担感

ー 小学校体育における話し合い活動について ー

学籍番号 249352

氏 名 本多 海渡

主指導教員 井上 功一

副指導教員 橋元 真央

1. 背景

近年、GIGAスクール構想の進展により、小学校体育においてもタブレット機器の活用が進められている。しかし、体育授業は技能習得を中心に構成されることが多く、ICTをどのように授業の中に位置付けるかについては、十分に検討されているとは言い難い。特に、話し合い活動の場面において、タブレット機器の導入が児童の学習の質にどのような影響を及ぼすのか、また教員の負担感にどのように関係するのかについては、実践的な知見が十分に蓄積されていない。体育における話し合い活動は、作戦の共有や振り返りを通して、児童の思考を深める重要な学習場面である。タブレット機器の特徴である即時性、視覚性を活用することで、ゲームの様子を客観的に捉え直し、振り返りや作戦会議の質を高められることが考えられる。そこで、タブレット機器による試合動画の撮影・視聴を話し合い活動に取り入れることで、児童が自分たちの動きを客観的に捉え、話し合いの質が変化する可能性が考えられる。映像を基に話し合うことでグループの課題や改善点が共有されやすくなり、より実践的な話し合いにつながることを期待される。

本研究では、小学校高学年の体育（ネット型ゲーム）における作戦会議の場面に着目し、タブレット機器を導入した話し合い活動が、児童の学習の質および教員の負担にどのような影響を及ぼすのかを明らかにし、適切なタブレット機器の活用方法を考察することを目的とした。

2. 方法

研究対象は、小学校第5学年の4クラスで実施したネット型ゲームの単元である。授業は技能中心の構成で行い、タブレット機器を導入しない授業と、試合動画を撮影・視聴するタブレット機器導入授業を実施した。データの収集は、①授業観察および授業動画分析、②話し合い活動の逐語記録、③児童を対象としたアンケート調査、④教員を対象としたアンケート調査により行った。児童アンケートは各授業終了後に実施し、得点化した回答についてマン・ホイットニーのU検定を用いて分析した。逐語記録についてはKH Coderを用いて語句抽出、共起ネットワーク分析および階層的クラスター分析を行い、話し合い内容の特徴を検討した。

3. 結果

授業動画分析では、タブレット機器導入授業において、話し合い活動中の児童の課題外行動が減少する傾向が見られた。また、児童アンケートの結果から、「話し合いで考えたことを実際の運動にいかしたか」の項目において、タブレット機器を導入した授業が有意に高い値を示した。「作戦盤の使い方が難しかったか（未導入）・作戦盤・タブレットによる試合動画視聴が難しかったか（導入）」の項目では、タブレット機器未導入授業の方が有意に高く、操作に関する負担は導入後の方が低いことが示された。逐語記録の分析からは、タブレット機器未導入授業および導入初期の話し合いでは、ボール操作や個々の技能に関する語が中心であった。一方、タブレット機器導入授業の最後の話し合いでは、「前」「後ろ」「場所」「狙う」など、空間認識や戦術的意図を示す語を含むクラスターが複数確認された。教員アンケートの結果からは、タブレット機器の導入が授業準備や教材作成の負担を必ずしも増加させるものではなく、話し合い活動の活発さや介入のしやすさを肯定的に捉えていることが示された。

4. 考察

本研究の結果から、小学校高学年の体育授業において、タブレット機器を活用した話し合い活動は、児童の学習の質に一定の変化をもたらす可能性が示された。逐語記録の分析では、タブレット機器を導入した授業において、「前」「後ろ」「場所」などの空間認識を示す語や、「狙う」といった戦術的意図を含む発言が複数のクラスで確認され、ゲームの状況を踏まえた話し合いが行われていた。また、授業観察および映像分析からは、話し合い活動中の課題外行動が減少する傾向が見られ、話し合いの目的が明確になった可能性が示唆された。さらに、児童アンケートにおいて「話し合いで考えたことを実際の運動にいかしたか」の項目が有意に高かったことから、話し合いで得た内容が実践場面に結び付いていたと児童自身が認識していたと考えられる。

一方、教員アンケートの結果からは、タブレット機器の導入が授業準備や教材作成の負担を必ずしも増大させるものではなく、話し合い活動の活発さや教員の介入のしやすさの向上につながる可能性が示された。これらの結果から、作戦会議や振り返りなど、話し合い活動の目的が明確な場面に限定して活用することが重要であると考えられる。また、試合動画や見本映像を共通の参照資料として用いることで、児童のメタ認知の表出を支援し、話し合いを実践につなげやすくする導入方法が有効であると示唆された。

5. まとめ

本研究から、技能中心の体育授業においても、話し合い活動の場面でタブレット機器を適切に活用することで、児童の戦術理解や話し合いの質が高まる可能性が示された。また、日常的に ICT を活用する環境が整っている場合には、タブレット機器の導入が教員の負担を増加させるものではないことが示唆された。そのため、タブレット機器は作戦会議や振り返りなど、活動の目的を明確にして活用することが重要である。